高退協ニュース

高退協事務局
1984. 5.
No. 21

・あいさつ
・バトンタッチ
・五九年度総会報告
・退職にあたって
・新会員紹介

あいさつ

会長　渋谷　巌

新緑の風薫る季節となりました。みなさんお達者でお過しのこととと存じます。

本年退職され新しく会員となられたみなさん、高教組の旗のもと頑張りぬかれ、長い間ほんとにご苦労さまでした。心より敬意を表します。健康には充分注意し、有意義な日々を送って下さい。

中曽根内閣は、平和憲法を無視し軍事予算の大巾増額など軍事大国化に狂奔し、反面、教育福祉予算は切り捨て、中でも私達退職者のささやかな年金までスライドは停止されるなど生活不安は増すばかり、また健保改正案では国保料の値上げは必至となります。

私たちも、高教組を先頭に民主諸団体と連帯して奮斗しなければと決意しているところです。

みなさんのご支援ご協力を切にお願いして挨拶といたします。

バトンタッチ

高教組委員長　南千加良

「高教組も世代交替だ」といわれるなかで、坪井さんと代りました。

そういえば高教組も半数は戦後生れで、あと十年すれば勤評を斗った組合員はみんな高退協です。私自身、戦後教育の洗礼をまっさきにうけ、教師三年目で始った勤評斗争では、我が青春を守る想いで逆流と斗ったものでした。

敗戦直後の学園には、南国の日射しが一挙に照りつけたような青春の讃歌があったし、勤評斗争には、身をていしてそれを守ろうとする教師の悲痛なまでの斗志がたぎっていました。

今年からの、おそらく数年にわたる「教育臨調」をめぐる斗いは、そうした戦後教育の動向を決する天王山になるのではないでしょうか。そしてそれは、戦争と勤評斗争を知らない多くの組合員が、バトンを受けて斗う第二の勤評斗争となるにちがいありません。これまで以上に高退協のみなさんのご鞭撻をよろしくお願いする次第です。

五九年度総会報告

本年度の高退協定期総会が、四月二十一日、「退職組合員を励ます会」に先立って開かれました。少し寂しい出席状況でしたが、中味の濃い熱りの多い総会になることができました。以下はその要旨です。

会長より、「本年の退職者は十四名、現場にあって最後まで平和と民主主義のために斗いぬかれた方々です。今後は健康に留意されて頑張って下さい。戦後最悪の中曽根内閣のもとで、退職後の生活が苦しめられているが、これからの生活防衛のためには民主団体と手をとり合って斗いを進める必要がある。今年一年間の方針を決定するに当って、斗う高退協としての頑張りを特に望みたい」という挨拶がありました。

続いて、高教組委員長より「昨年は選挙の年であり、高退協の皆斗に学んだ。今年は教育の年として、高退協の歩んだ原則的な斗いの道を総括して進みたい。今年は組合員一千名の目標を達成さすので期待してほしい。組合員の五〇%は戦後生まれであり、守るべき戦後民主教育は何であったかを若い組合員に知らせたい」という挨拶を受けました。

協議題に入り、一九八三年度活動の経過報告、会計報告並びに監査報告を承認しましたが、特に会費納入率が五五・五%であり、これを高めることを考えるよう指摘を受けました。また、諸役員の改選について、次の役員が決定しました。

会　長	渋谷　巌	(再)
副会長	浜田昌俊	(再)
〃	山崎博幸	(再)
事務局長	小川逸雄	(再)
常任委員	富永三雄	(再)
〃	崎山　正	(新)
〃	松高一正	(再)
〃	市川一郎	(再)
監査委員	佐伯良夫	(再)
〃	田村　輝	(新)

門田豊氏より辞任の挨拶があり、続いて、八四年度運動方針等について討議がおこなわれ、承認されました。

(1) 会員名簿の発行
(2) ニュースの発行（年四回）
(3) 懇親誌五号の発行
(4) 会員相互の研修と親睦（年三回）、秋季研修一泊旅行
(5) 民主諸団体との情報交換並びに共斗

討議の中で、退職に当って種々の矛盾や問題点を感じるということで次のような提起がなされ、活発に討論されました。

(1) 希望があれば、退職者の時間講師のチャンスは保証されないか
(2) 年金の支給は後払い、税金先払いは制度としておかしい
(3) 継続組合員の共済負担金が増になる
(4) 退職金の預金問題として、マル優の拡大ができないか（九〇〇万が限度で、利息に三五%の税がかかる）
(5) 年金にまでなぜ所得税を課すのか

これらの運動を進める上で、高教組運動の中へ位置づけて共斗し、また、県退協へも働きかけ、民主諸団体とも共斗して、実現を目指すことを承認しました。また、朝鮮問題講演会への参加や署名、自由民権史跡めぐりへの参加の訴えもありました。

閉会後は、「退職組合員を励ます会」に合流、高退協からも多数参加（参加者の約半数）しました。山原健二郎氏より一人一人に色紙が贈られました。（事務局）

退職にあたって

時久　完

三月三十一日、「辞職を承認する」との辞令を受けとり、心からホッとしました。私の教員生活四十年のうち、管理職としての六年間はほんとにしんどい思いをしました。

これからは、大勢の弟子達と共に弓道に親しむと共に、好きな花井園芸で趣味と実益をかねた生活を送りたいと考えております。

中沢尚敏

二十歳代はずっと百姓をしていたので、今やっともとの百姓に返ってほっとしているところである。田植なども曜日を気にする必要がなくなって気が楽になっている。

しかし、勤務年数が少いので、退職金も年金も、一人前にはもらえないから、「悠々自適」には程遠いことだろうが、せめて「晴耕雨読」ではいきたいものだと思っている。

橋田美智子

春のひざしが満ちあふれ若葉の美しい季節となりました。私は去る三月三十一日をもちまして、高知県立須崎工業高校を最後に三十四年間の思い出多い教員生活を去ることになりました。

振り返ってみますと、至らない私でございましたが、皆様のあたたかい御指導御援助をいただきお蔭様で大過なく今日の日を迎える事が出来ました。本当に楽しく充実した日々でございました。厚く御礼申し上げます。

これからは主婦業と書など楽しみつゝ第三の人生をのんびりゆたかに過してゆきたいと願って居ます。どうか今後とも御交誼、御指導をよろしくお願い申しあげます。

久万田登志子

六十二才の誕生日を三月に迎えて、やっと勤続二十年になり、勧奨退職しました。

これからは、第二の人生を、と張り切っています。身体の方はどく健康で、でも園の方は忘れ物、探し物など多いようです。好きな散歩、山歩き、旅行と、四季折々の味わいを楽しみたいと思っております。今まで手の足りなかった庭の木や草花の世話、近くにいる孫の面倒も適当になど色々楽しみにしています。

心身共に健康で、明るい老後を過したいと願っています。

新会員紹介

時久　完	(城山高)	
安岡　智泰	(室戸水)	
井上　英生	(安芸高)	
中沢　尚敏	(高知農)	
関田　孝司	(山田高)	
宮地　省吾	(高知工)	
久万田登志子	(盲学校)	
吉岡　能子	(高ろう)	
上村　福恵	(山田養)	
岡田　恒子	(若草養)	
崎山　正	(高知商)	
橋田美智子	(須崎工)	
和田美代子	(盲学校)	
坂本英一郎	(追手前)	